

2014年に設立したママスクエアは、東京近郊のショッピングモール内にキッズスペースを併設した店舗を構え、子育てと仕事を両立できる機会を提供する事業を展開。母親は同社が雇用する従業員となり、他企業から外部委託を受けた事務系の仕事を中心に行っている。「優秀な人材を埋もれさせ

るのもつたないない」(藤代聡ママスクエア社長)との思いから、仕事をしたい母親の支援に取り組み、合わせて、保育園の待機児童問題の解消など、子育てに関する社会環境の改善に一役買っている。「東日本大震災以降、やはり子供が近くにいないと安心できない」との思いが広がったことも大きいです。仕事を辞めたり、働き方を変えて少しでも子供のそばにいることを選んだ人も多い。そこで、親子の生活圏内での新しい働き方を提案しました」(藤代社長)

また、サテライトママスクエア開設が実現した背景には、ハリウッド創業者の一人、メイ牛山の哲学である「女性が活躍する社会は、平和である」に基づいた企業風土が大きく影響している。16年3月発売の新スキンケアライン「AUSSE」をはじめ、働く女性を応援する機能的な商品を手掛けてきた同社にとって、化粧品開発・販売とは異なる形態であっても、女性の悩みへの支援という姿勢は共通だ。小川マーケティングマネージャーが話す。

この新事業を成功させる意識を持つてほしい」と、藤代社長は語る。例えば、六本木へ通勤するに当たり、母親からは「子供を連れてラッシュ時の満員電車に乗るのは不安」との声も聞かれる。始業時間を遅らせるなど、働きやすい環境を整備するには、企業側の柔軟な対応も求められる。今後は「母親と企業側が子育ての負担をシェアすることで、働きやすい世の中にした」(藤代社長)と、サテライトオフィスの定着によって、社会へ一石を投じる考え。つまり、企業にとって、これからの労働環境を整えるきっかけになるわけだ。ハリウッドでも母親が勤務中に化粧品を利用できるスペースの提供や、子供のカットサービス、また、別の展開として全国の化粧品専門店との連携なども行い、新たな子育てサポートモデルとなることを検討している。「働くママを応援する社会的流れを、東京六本木から日本につくる」との理念を掲げて事業を展開し、スタンダードなワーキングスタイルとなるか、注目度は高い。★

供が「遊べる」場所を提供するとの意味合いが強くなっている。契約企業も含めた三位一体で事業成功を目指す

そもそも、ハリウッド化粧品をはじめサロンや美容専門学校の経営など、いわゆる美容業界のハリウッドグループが、なぜ、このようなサテライトオフィス事業に乗り出したのか。サテライトママスクエア開設に携わったハリウッドビユーティサロン六本木ヒルズ本店の鎌田薫前支配人は、「自分が出産後に、どのようなワークスタイルで仕事復帰しようかと模索していた時、テレビでママスクエアの紹介を見た」ときっかけを説明する。

や外国人観光客に交じって、幼い子供の手を引いた母親が降りてくる。改札を抜け、早く遊びたくてうずうずしている子供に先導されるように向かう先は、六本木ヒルズ内のハリウッドビユーティプラザ3階。ドアを開け、友達を見つけて走り出す子供の背中に「仲良く遊ぶのよ」と声を掛けながら、自分のデスクに座りパソコンを開くと、取引先からのメールが届いていた……。

同オフィスは、保育園など子供の預け場所が見つからなくて育児休暇から復職できない母親社員などを対象に、子供のそばで安心して働ける「ワーキングスペース」をサテライトで提供する新しい子育てサポートモデル。最大で45席の設置が可能なオフィススペースの隣に、同時に45人までの子供(満1歳~10歳)が過ごせるキッズスペースを設置している。

「このシステムの施設は開設における制約が少なく、計画からオープンまでの期間も短くなります。新しいビジネスモデルなので、まだまだ運営しながら決めていくことも多いのですが、そこにさまざまな可能性があると思います」

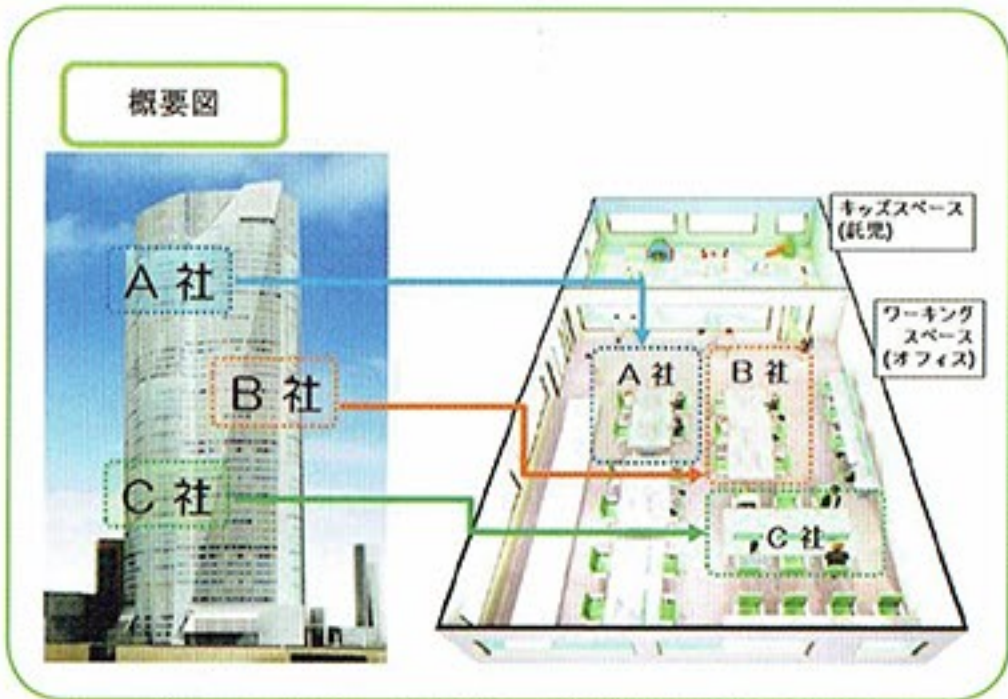
また、もともと、この場所にはハリウッドが経営するサロンのキッズスペースがあった。さらに、ママスクエアの前身企業は、親子で楽しめるキッズカフェを経営。そのため、今回の事業においても、子供を「預かる」のではなく、子

「遊べる」場所を提供するとの意味合いが強くなっている。

近い将来、いや数カ月後には、こんな風景が当たり前のように見られるかもしれない。ここは、6月6日にハリウッドが東京都港区六本木の本社ビル内にオープンした、「サテライトママスクエア by HOLLYWOOD」。首都圏にキッズスペース併設オフィスを展開するママスクエアとの共同運営による、子育て中の母親が子供と一緒に出勤できるサテライトオフィ

一方、キッズスペースには、保育士資格等を持つスタッフが常駐。オフィススペースからはガラス窓越しの様子が見ることができ

また、もともと、この場所にはハリウッドが経営するサロンのキッズスペースがあった。さらに、ママスクエアの前身企業は、親子で楽しめるキッズカフェを経営。そのため、今回の事業においても、子供を「預かる」のではなく、子



「このシステムの施設は開設における制約が少なく、計画からオープンまでの期間も短くなります。新しいビジネスモデルなので、まだまだ運営しながら決めていくことも多いのですが、そこにさまざまな可能性があると思います」

また、もともと、この場所にはハリウッドが経営するサロンのキッズスペースがあった。さらに、ママスクエアの前身企業は、親子で楽しめるキッズカフェを経営。そのため、今回の事業においても、子供を「預かる」のではなく、子

「このシステムの施設は開設における制約が少なく、計画からオープンまでの期間も短くなります。新しいビジネスモデルなので、まだまだ運営しながら決めていくことも多いのですが、そこにさまざまな可能性があると思います」

また、もともと、この場所にはハリウッドが経営するサロンのキッズスペースがあった。さらに、ママスクエアの前身企業は、親子で楽しめるキッズカフェを経営。そのため、今回の事業においても、子供を「預かる」のではなく、子

「このシステムの施設は開設における制約が少なく、計画からオープンまでの期間も短くなります。新しいビジネスモデルなので、まだまだ運営しながら決めていくことも多いのですが、そこにさまざまな可能性があると思います」

また、もともと、この場所にはハリウッドが経営するサロンのキッズスペースがあった。さらに、ママスクエアの前身企業は、親子で楽しめるキッズカフェを経営。そのため、今回の事業においても、子供を「預かる」のではなく、子

## ハリウッド×ママスクエア 子育て女性を支援する新ワーキングスタイルを提案 日本初のキッズスペース併設サテライトオフィスが誕生

母親は仕事に通い  
子供は遊びに通う

朝の通勤ラッシュもピークを過ぎて、ほんの数時間前の喧騒が幻であるかのように落ち着いた表情を見せる、平日午前10時の地下鉄六本木駅。ホームに滑り込む電車からは、スーツ姿のサラリーマン

「このシステムの施設は開設における制約が少なく、計画からオープンまでの期間も短くなります。新しいビジネスモデルなので、まだまだ運営しながら決めていくことも多いのですが、そこにさまざまな可能性があると思います」

また、もともと、この場所にはハリウッドが経営するサロンのキッズスペースがあった。さらに、ママスクエアの前身企業は、親子で楽しめるキッズカフェを経営。そのため、今回の事業においても、子供を「預かる」のではなく、子

「このシステムの施設は開設における制約が少なく、計画からオープンまでの期間も短くなります。新しいビジネスモデルなので、まだまだ運営しながら決めていくことも多いのですが、そこにさまざまな可能性があると思います」

また、もともと、この場所にはハリウッドが経営するサロンのキッズスペースがあった。さらに、ママスクエアの前身企業は、親子で楽しめるキッズカフェを経営。そのため、今回の事業においても、子供を「預かる」のではなく、子

「このシステムの施設は開設における制約が少なく、計画からオープンまでの期間も短くなります。新しいビジネスモデルなので、まだまだ運営しながら決めていくことも多いのですが、そこにさまざまな可能性があると思います」

また、もともと、この場所にはハリウッドが経営するサロンのキッズスペースがあった。さらに、ママスクエアの前身企業は、親子で楽しめるキッズカフェを経営。そのため、今回の事業においても、子供を「預かる」のではなく、子

「このシステムの施設は開設における制約が少なく、計画からオープンまでの期間も短くなります。新しいビジネスモデルなので、まだまだ運営しながら決めていくことも多いのですが、そこにさまざまな可能性があると思います」

また、もともと、この場所にはハリウッドが経営するサロンのキッズスペースがあった。さらに、ママスクエアの前身企業は、親子で楽しめるキッズカフェを経営。そのため、今回の事業においても、子供を「預かる」ではなく、子

「このシステムの施設は開設における制約が少なく、計画からオープンまでの期間も短くなります。新しいビジネスモデルなので、まだまだ運営しながら決めていくことも多いのですが、そこにさまざまな可能性があると思います」

また、もともと、この場所にはハリウッドが経営するサロンのキッズスペースがあった。さらに、ママスクエアの前身企業は、親子で楽しめるキッズカフェを経営。そのため、今回の事業においても、子供を「預かる」ではなく、子

「このシステムの施設は開設における制約が少なく、計画からオープンまでの期間も短くなります。新しいビジネスモデルなので、まだまだ運営しながら決めていくことも多いのですが、そこにさまざまな可能性があると思います」

また、もともと、この場所にはハリウッドが経営するサロンのキッズスペースがあった。さらに、ママスクエアの前身企業は、親子で楽しめるキッズカフェを経営。そのため、今回の事業においても、子供を「預かる」ではなく、子